◆滝川市　第３回検討会議　ディスカッション資料

（１）滝川市中心市街地の実態について

①広域商圏調査（北海道平成２１年度）における滝川市の状況

・平成２１年度、北海道では消費者の購買動向の変化や大規模小売店舗進出等の影響を把握し、道内の地域商店街の賑わい再生、中心市街地活性化ための基礎データとして活用することを目的として、広域商圏調査が行われた。

・調査によると、滝川市は、道内で８箇所ある広域商圏の内、札幌広域商圏に属し、その中で中小商圏の拠点として機能している。

・滝川市の商圏は、下表に示すとおりであり、平成２１年における商圏人口は約１２万人と平成３年からの推移では若干減少している傾向にある。

表－札幌広域商圏を構成する市町村

【平成３年】　（単位：人、%）

8広域商圏	札幌広域商圏　2,668,189　13市27町10村		
31中小商圏	市町村単位の商圏区分		
	1次商圏	2次商圏	3次商圏
	(56%以上)	(30%以上56%未満)	(5%以上30%未満)
札幌 2,085,701 5市7町3村	札幌市 88.3	江別市 48.3	千歳市 13.1
	広島町 63.5	当別町 36.3	恵庭市 22.1
	石狩町 57.4	浜益村 30.7	夕張市 27.3
		厚田村 39.3	由仁町 20.1
			長沼町 25.1
			南幌町 28.0
			利尻富士町 14.5
			島牧村 29.7
小樽 203,970 1市4町1村	小樽市 79.2(10.4)	積丹町 35.5(18.8)	
		古平町 30.7(11.0)	
		余市町 33.6(13.4)	
		仁木町 34.3(9.1)	
		赤井川村 33.9(7.3)	
岩内 35,930 3町2村	岩内町 65.6(13.7)	寿都町 30.9(19.4)	
	共和町 57.5(11.6)	神恵内村 45.6(16.5)	
	泊村 62.5(14.9)		
倶知安 41,512 5町2村	倶知安町 64.7(19.1)	喜茂別町 32.2(32.0)	
		京極町 45.5(27.5)	
		蘭越町 34.1(11.5)	
		ニセコ町 46.0(19.2)	
		真狩村 45.5(14.8)	
		留寿都村 35.7(11.5)	
岩見沢 170,389 3市3町2村	岩見沢市 80.8(11.5)	月形町 46.6(10.7)	美唄市 20.0(6.8)
	三笠市 59.4(10.3)	新篠津村 45.7(16.5)	栗山町 20.9(14.1)
	栗沢町 66.2(9.4)		
	北村 74.4(4.4)		
滝川 130,687 4市5町	滝川市 79.2(9.5)	砂川市 36.5(12.0)	
	浦臼町 56.6(5.5)	歌志内市 46.3(4.0)	
	新十津川町 73.8(2.6)	赤平市 46.7(3.7)	
	雨竜町 65.4(1.2)	奈井江町 38.6(4.7)	
		上砂川町 42.3(6.0)	

【平成２１年】　（単位：人、%）

8広域商圏	札幌広域商圏　2,870,906　16市24町7村		
32中小商圏	市町村単位の商圏区分		
	1次商圏	2次商圏	3次商圏
	(56%以上)	(30%以上56%未満)	(5%以上30%未満)
札幌 2,133,903 5市4町2村	札幌市 95.8	喜茂別町 53.5	島牧村 28.4
	石狩市 58.8	長沼町 41.5	恵庭市 25.3
	当別町 57.2	留寿都村 40.1	夕張市 23.6
	北広島市 56.1	京極町 39.6	
小樽 135,232 1市	小樽市 76.5(19.1)		
余市 33,261 4町1村		余市町 55.4(14.9)	
		古平町 55.2(9.0)	
		仁木町 50.7(13.6)	
		積丹町 48.0(14.5)	
		赤井川村 47.9(16.7)	
岩内 28,606 3町2村		岩内町 42.4(20.3)	共和町 24.9(20.6)
		泊村 43.5(17.3)	寿都町 18.3(22.0)
		神恵内村 36.2(15.1)	
倶知安 27,815 3町1村		倶知安町 48.3(26.9)	蘭越町 28.6(26.7)
		ニセコ町 35.5(33.4)	
		真狩村 30.3(29.0)	
岩見沢 156,170 3市3町1村	岩見沢市 81.5(13.0)	美唄市 51.0(9.4)	栗山町 28.5(15.4)
	月形町 70.2(12.2)		由仁町 23.9(23.3)
	三笠市 65.5(9.2)		
	新篠津村 58.6(10.9)		
滝川 121,782 5市5町	滝川市 79.8(7.5)	歌志内市 49.3(8.0)	
	新十津川町 70.4(8.5)	奈井江町 46.4(10.2)	
	赤平市 65.7(5.4)	砂川市 46.1(7.2)	
	雨竜町 63.2(5.5)	上砂川町 41.1(6.4)	
	浦臼町 62.4(5.4)	芦別市 36.8(4.7)	
江別 131,521 1市1町		江別市 55.1(41.4)	
		南幌町 42.3(33.1)	
千歳 102,616 1市1町	千歳市 81.7(10.4)	安平町 46.8(5.7)	

注1. 表中の数値(%)は、中小商圏母都市への購買率

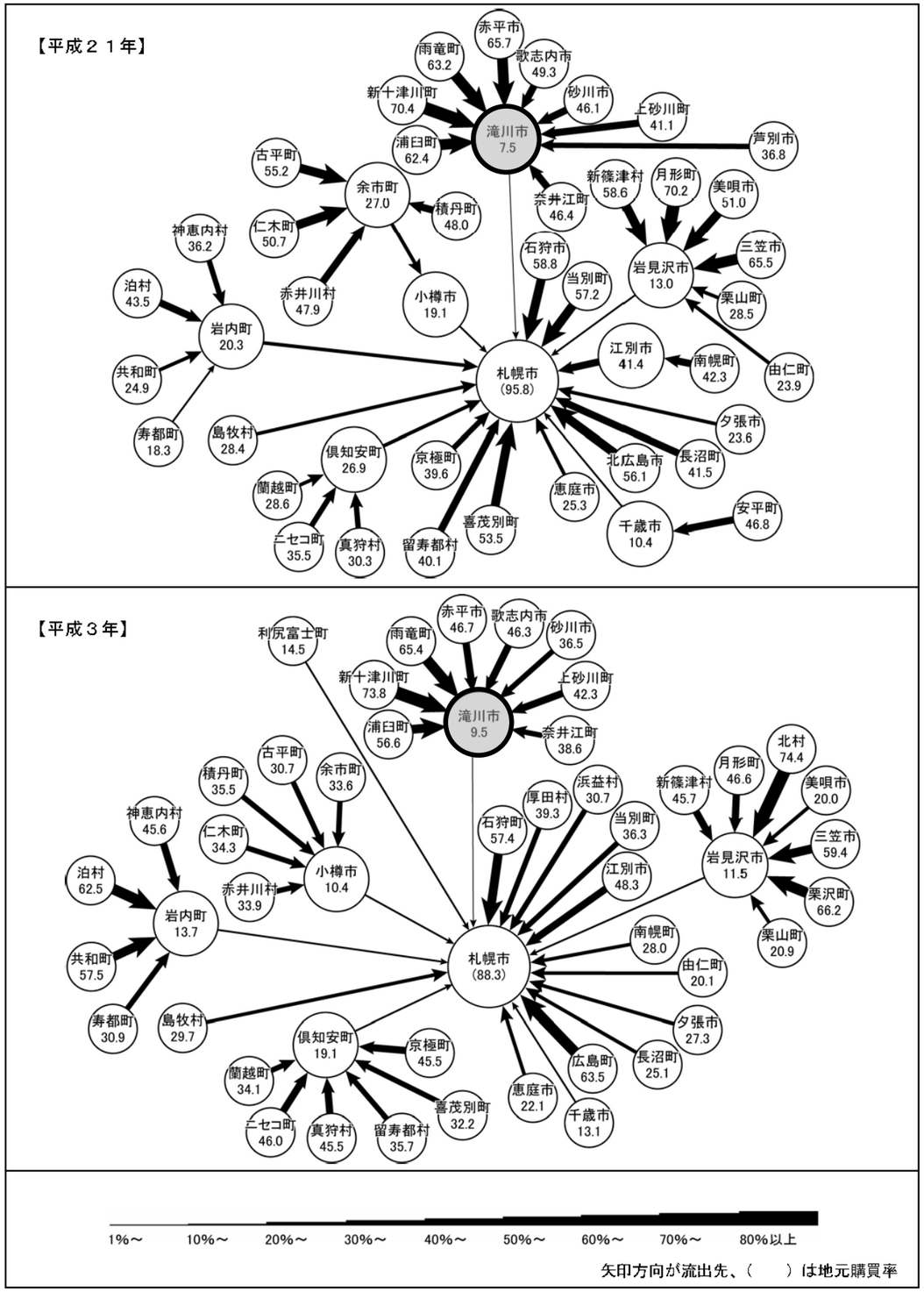
注2. ( )内数値は、広域商圏母都市(表 4-5 では札幌市)への購買率

（市町村合併）　平成３年　石狩町、厚田村、浜益村　→　平成21年　石狩市

岩見沢市、栗沢町、北村　→　岩見沢市

追分町、早来町　→　安平町

図－札幌広域商圏の買回品の流出率



②中心市街地の商業の実態

ａ）中心市街地における商店街組織と空き店舗状況

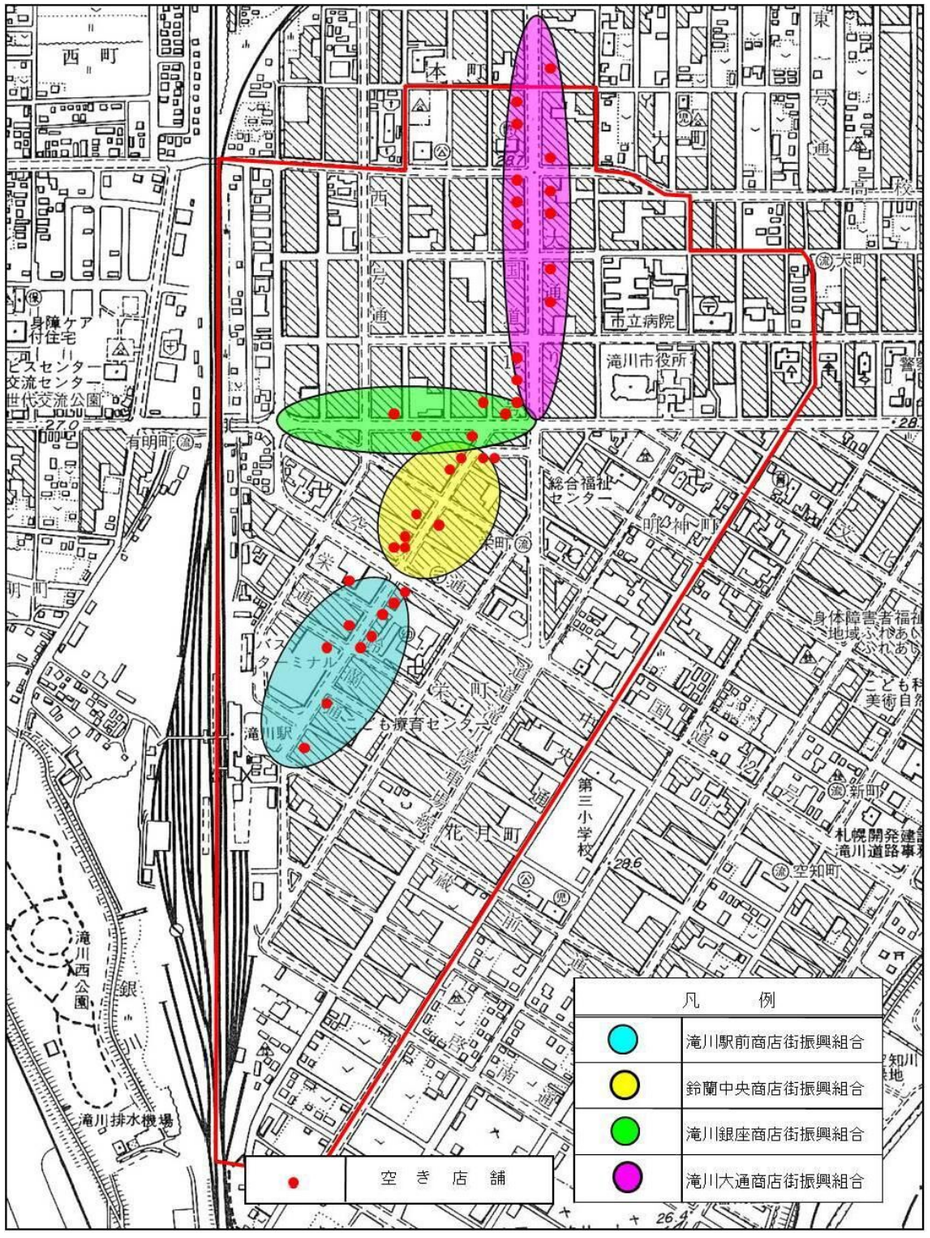
・中心市街地には、４つの商店街組織があり、その店舗数は１５７店舗である。

・１５７店舗の内、３８店舗は空き店舗となっている。

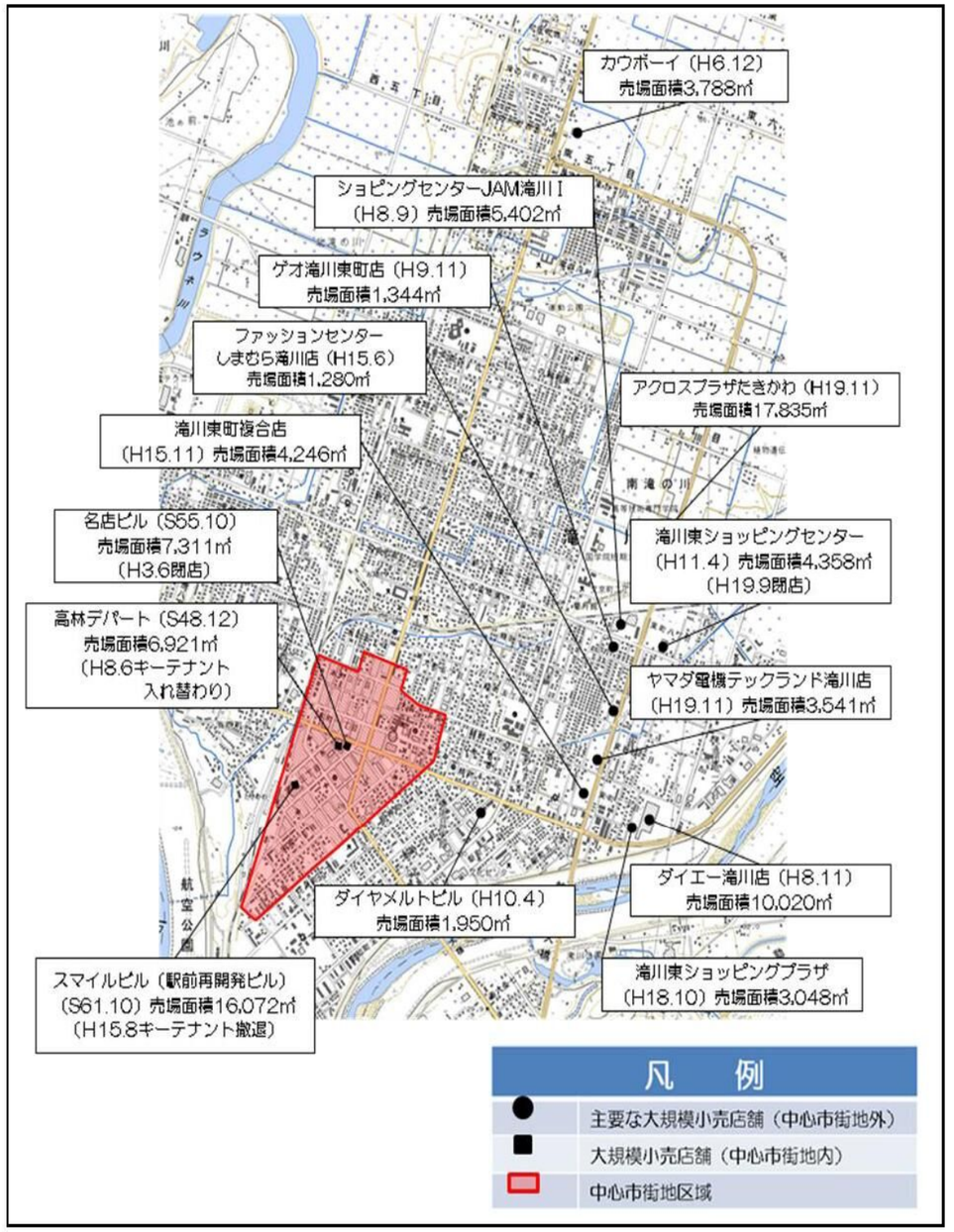
・大型店は、中心市街地にスマイルビル、高林デパート及び名店ビルの３施設あるものの、疲弊した状態にあり、特に高林デパートは、建築後３０年以上経過し、老朽化が著しい。

・名店ビルは、建築基準法の耐震基準が抜本的に改正された昭和５６年以前に設計され、建築されていることから、耐震に対する対策が必要であると思われる。

図－商店街組織と空き店舗状況（H19 中活計画より）



図－大型店舗立地状況（H19 中活計画より）



②栄町３・３地区の検討状況

ａ）現在までの検討の経緯

平成　３年　×　ラルズプラザ撤退（名店ビル）
平成　８年　×　札幌フードセンター撤退（高林デパートＢ1）
平成　９年　×　かくはた撤退（高林デパートＢ1）
　　×　高林デパート廃業宣言
　　×　くにい（高林デパート・キーテナント）撤退（本社倒産）
　　△　YES そうご電気（高林デパート）郊外移転
平成１０年　○　三番館開店（高林デパート「くにい跡地」）
平成１６年　●　チャレンジショップ「は・てぃ」（名店ビル内に設置）
平成１９年　×　元気カード会移転（高林デパート⇒第一パーキング）
　　×　名店ビル空き店舗化（全閉店）

・ある事業者からの提案内容は、１階に生鮮食品などを扱う店舗、２階に子供や老人が集まるような施設、３階以降は共同住宅といった１棟と平屋のドラックストアなどといった２棟を入れる計画案が出され、再開発を行う機運が高まった時期があるが、現在は停滞している。

ｂ）今後の展開の方向性

・平成２３年度では、地権者の合意形成を進め、中心市街地活性化協議会において、地区再生について「ゼロベース」から検討する予定にある。

③駅前周辺地区のまちづくり動向

・滝川駅舎におけるバリフリー対策を契機に、新しい滝川市の玄関口を創造するため、駅前広場等の再整備が検討されている。
・今後は、駅前広場整備を見据えた、駅前地区の開発に関する計画を策定するなど、実現に向けた検討が必要となってくる。

④中心市街地活性化協議会メンバーに対するアンケート調査

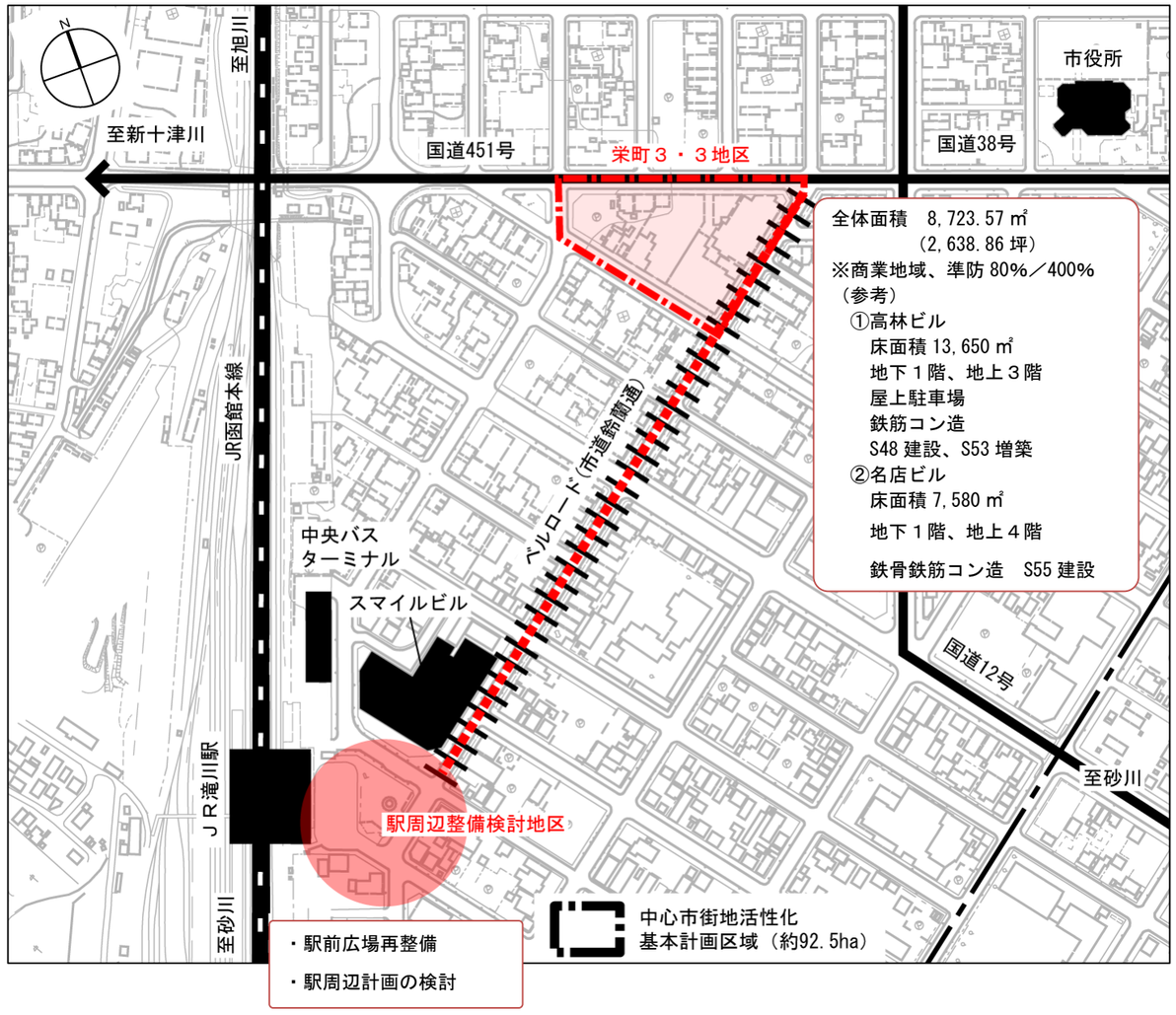
ａ）アンケートの目的

・本アンケートは、中心市街地活性化協議会の会員に対し、中心市街地活性化の担い手として、自ら（数人共同での事業化も含む）あるいは、まちづくり会社が取り組む可能性を把握することを目的としている。

ｂ）アンケート（案）

次ページ参照

図－栄町３・３地区及び駅周辺地区の概況



中心市街地活性化に関するアンケート

本アンケートは、中心市街地活性化協議会の会員に対し、中心市街地活性化の担い手として、自ら（数人共同での事業化も含む）あるいは、まちづくり会社が取り組む可能性についてお聞きするものです。

本アンケートの結果は、滝川市が策定中の活性化ビジョンの基礎資料として活用します。

なお、本アンケートは、お手数ですが、８月１９日までに滝川市経済部駅周辺整備室に送付願います。

問１）スマイルビルの現状を踏まえ、今後のスマイルビルについておたずねします。あてはまるものを１つ選んでください。

1. 建物をリニューアルし、民間が主体となって全面的に再生した方が良い。
2. 民間により現状のままテナント（お店）等を充実した方が良い。
3. スマイルビルの再生は、公共に任せた方が良い。
4. 現状のままでよい。
5. 民間が主体となって新たな用途としてスマイルビルを建替えた方が良い。
   （例）医療福祉施設に建替えるなど
6. 公共が主体となって新たな用途としてスマイルビルを建替えた方が良い。
   （例）公営住宅に建替えるなど
7. その他（　　）

問２）スマイルビルにあなたが今以上に利用しようとする場合、どのような施設（機能）であれば、まちづくり会社や民間企業が運営できると思いますか。あてはまるものを２つ選んでください。

1. 農産物直売所
2. JR や都市間バスの運行状況がわかる休憩所
3. 各種団体が利用できる屋内イベント広場
4. 小学生未満の子ども達が遊べる遊具広場
5. 健康増進広場（ウォーキング、体操、こども運動場など）
6. 小さな子ども達を預けることができる施設
7. 各種団体や市民サークル等が活動や会合ができる会議室
8. 「食」を楽しめる飲食店
9. 気軽に立ち寄ることができる喫茶コーナー
10. 滝川市や周辺地域の観光案内所（無料パンフレットコーナーなど）
11. 滝川市や周辺地域の特産品やお菓子などを集めたお土産店
12. 各種団体や市民サークル、学生等の文化活動の成果を展示できる空間
13. 高校生や大学生による模擬店や喫茶店
14. その他（　　）

アンケートは裏面に続きます。

問３）中心市街地内のスマイルビル及び栄町３・３地区についてお聞きします。
それぞれのビル及び地区の再生の方向性はどのようなことを柱に据えるとよいと考えますか。

ビル・地区名	再生の方向性
○○ビル	食料品スーパーを主体とした商業ビルとして再生

ビル・地区名	再生の方向性
スマイルビル	
栄町３・３地区	

問４）中心市街地が活性化（人が集い　賑わう街）するために、中心市街地活性化協議会やまちづくり会社ができることは何かありますか。自由なご意見をお聞かせください。

アンケートは以上です。
ご協力ありがとうございました。

団体名	

（２）滝川市中心市街地の現況を踏まえた活性化の方向性

①全体のストーリー（中心市街地のまちづくりの方向性）

〇中心市街地活性化基本計画に掲げる地区の活性化の更なる展開を図り、活性化目標を達成する上では、注力すべき取組の重点化と活性化に向けたシナリオの再構築が必要となる。

〇今後の地区における活性化の具体的推進に向け、特に中心市街地活性化基本計画に掲げる活性化の方向性の視点を踏まえたアクションプログラムの方向性を明確に定めることが求められる。

〇これらを個別の取組として推進するのではなく、地区のまちづくりに関わる主体が互いの連携により一体的に推進することで、成果を確認し、相乗効果、波及性、持続性を生みだすことが可能となる。そのため、こうした主体間のつなぎ合わせ、適切な方向に誘導する組織あるいは人材の明確化が求められる。

■活性化の視点

◆コンパクトなまちづくり（歩いて暮らせる・歩いて楽しいまちづくり）

〇高齢化社会の到来に対応した、歩いて暮らせる**コンパクトなまちづくり**
〇交通利便性を活かした、中心市街地における交流人口の増加
〇来街者が歩いて楽しめる賑やかなまちづくりの推進

◆たのしさ・賑わいの再生

〇「楽しさ」「賑わい」を享受できる、歩いて楽しめる中心市街地を形成することが求められる。
〇滝川の数多い観光資源を中心市街地活性化に結び付け、多様な手段による情報発信を通じてまちなかの「楽しさ」「賑わい」を創造することが求められる。

滝川のにぎわいと暮らしの魅力を凝縮したコンパクトなまちなかの再生

■取組の基本方針

1 まちなかに賑わいを生む暮らしの場の創出
2 滝川の魅力を端的に体感できる交流の場の形成
3 歩いて暮らせる・歩いて楽しいまちなか空間の再生
4 まちづくりの持続的な推進・展開の担い手づくり

■基本方針に基づく取組の骨子

『場の創出・再生』		『活動・にぎわいの創出・連携』	
暮らしの場	ニーズに対応したまちなか居住の受け皿の整備	賑わい創出	既存事業・まちづくり活動団体の連携
交流の場	滝川の顔となる場・にぎわい・交流の場の形成	観光交流	滝川市の観光資源を活かしたまちなかの活性化
にぎわいをつなぐ空間	まちなかの回遊・交流を生みだす歩行者空間の強化	担い手育成	中心市街地の一体的なまちづくりを支える体制づくり

①まちなかにおける、にぎわい・交流の顔づくり

〇現状の基本計画が対象とする１００ha 弱のエリアにおいて、点的な取組を個別に行っては十分な効果が発揮されにくく、重点的かつ象徴的な取組を起点として、小さな動きをつなぐ波及性のあるまちづくりが求められる。

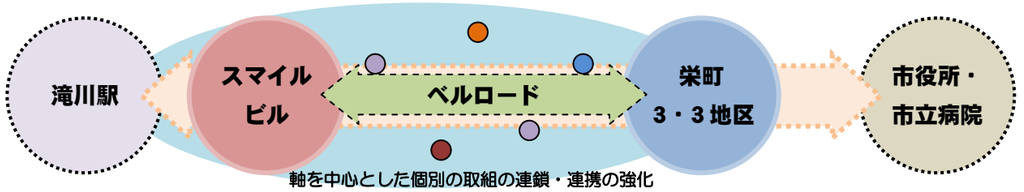
〇栄町３・３地区、スマイルビルといった老朽化した大規模商業施設があり、現状のままではこうした大規模施設の閉鎖・廃墟化の可能性が高く、地区のまちづくりを進める上ではこれらの施設跡の利用が重要な課題となる。

〇こうした視点から、大規模な土地利用転換や現状施設の有効利用等を通じて、これらを新たな街の拠点としながら、基本方針に基づく取組の骨子に掲げた活動を展開することが重要となる。

〇また、こうした拠点づくりを通じて、これらを両極とするベルロードの再生、滝川市役所や市立病院方向とのつながりの強化など、点的な取組を線的に波及させることが可能となる。

【滝川市中心市街地活性化に向けた基本的方向性】

①既存の商業拠点や駅周辺の再生による、中心市街地の新たな集客・交流の場の形成
②点から線、面へとまちづくりの波及的展開



②まちづくりの拠点の可能性

〇中心市街地の新たなまちづくりを支える二つの核について、現状の動向等を踏まえて今後の取組の方向性について以下に整理する。

スマイルビル

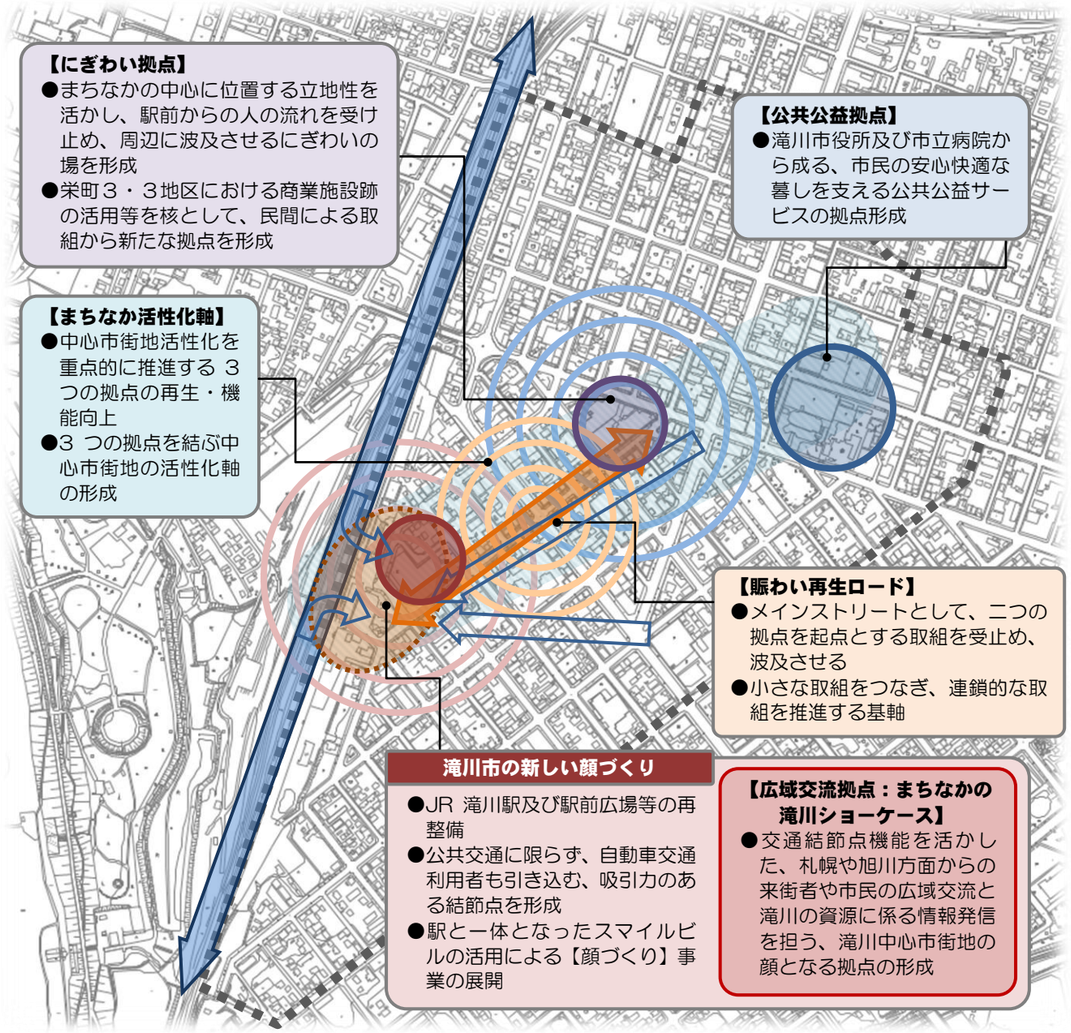
立地特性	〇駅並びにバスターミナル等、交通結節点近接の立地（地下接続）
施設利用の特徴	〇地下部の NPO による物販、貸スペース、子育て支援 〇たきかわホールの運営
課題	〇キーテナント撤退に伴う集客力の低下 〇ビル所有会社の経営悪化に伴い、廃墟化の可能性

●駅近接の利便性を活かし、駅利用者や来街者、まちなかの居住者等に多様なサービスを提供できる「滝川の顔」づくりを交通結節点と一体的に展開
●既存の公共空間を活かした、実験事業等の推進によるマネジメントの基盤を形成

栄町３・３地区

立地特性	〇活性化計画対象区域の中心に立地
施設利用の特徴	〇消費者協会による「暮らしのショールーム」の運営
課題	〇施設の老朽化 〇商業機能の喪失による集客力の低下

●現在の施設所有者を中心とする活用の検討経緯を踏まえ、まちなかにおける賑わいの中心としての機能・空間を誘導



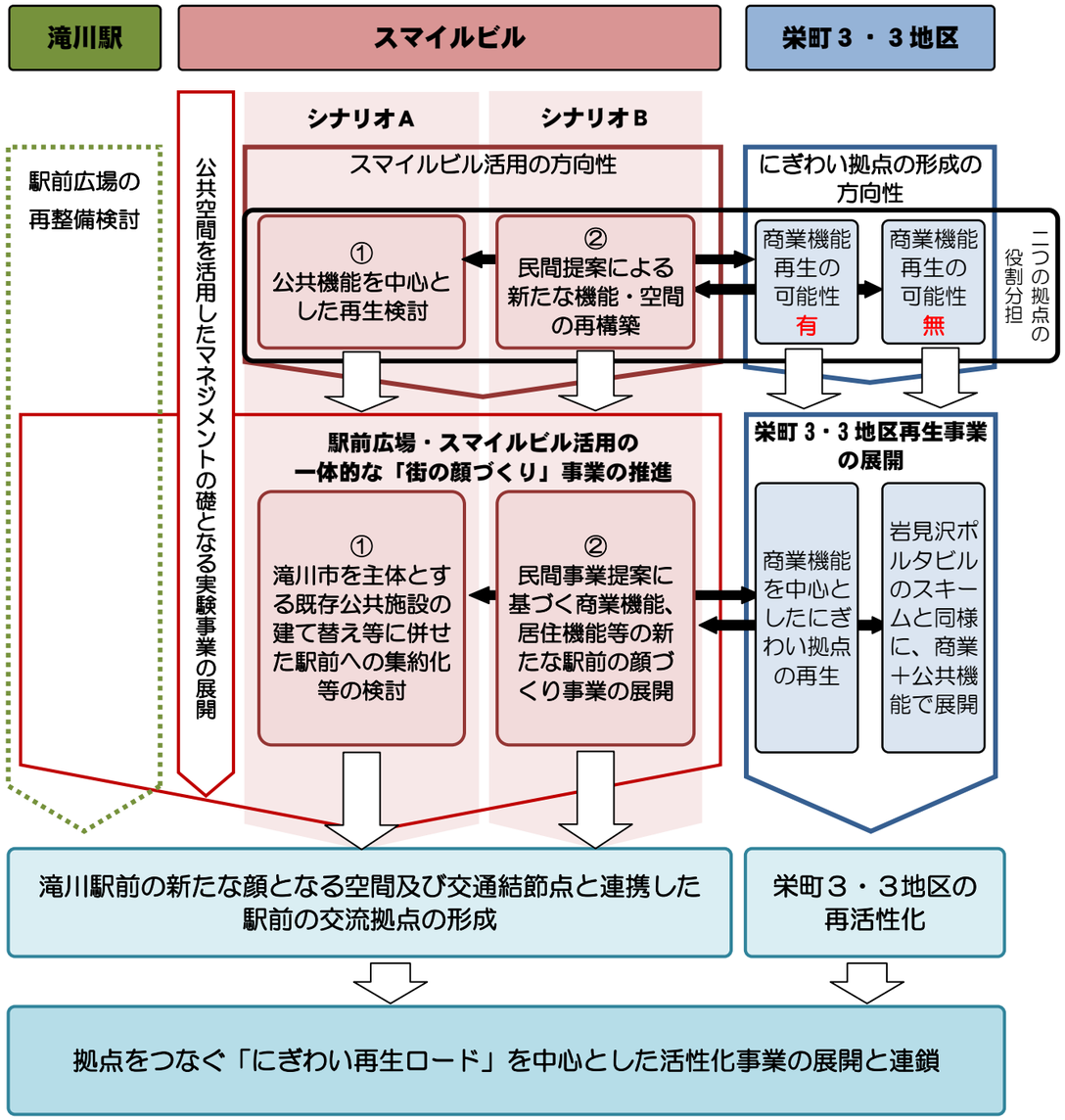
実験事業の例

- **循環バスの運行（駅→スマイルビル→栄町３・３地区→市役所→市立病院）**
- **スマイルビルの広場空間を活用したマルシェ**
- **スマイルビルのピロティ部分を活用したオープンカフェ、フリーマーケット**

（３）展開のシナリオ

○二つの核の役割・位置づけを踏まえ、今後のまちづくりの骨格となる拠点形成に向け、以下のシナリオから検討並びに具体的な事業化を図るものとする。

○特に ２ つの拠点づくりにおいては、それぞれが必要とされる役割の実現に向け、差別化を図った展開が求められ、両者における誘導機能の差別化・役割分担も不可分な関係にあるものと思われる。

○こうした２拠点の関係を踏まえつつ、以下のシナリオから検討・展開を図ることが求められる。

○さらにスマイルビルについては、周辺の開発動向との連携により、施設の持つ立地性を活かした一体的な顔づくりを進めることが求められる。